

## 平成21年度「市政懇話会」第2回「広域交流観光」部会議事概要

日 時：平成21年11月17日（火）15：15～16：15

場 所：鳥取市役所本庁舎6階全員協議会室

出席者

【委員】8名

【鳥取市】林副市長、田中観光コンベンション推進課長

【事務局】田中企画推進部次長、田中

### 開 会

#### 部会長あいさつ

- ・前回協議を行い、議題にあがった山陰海岸ジオパークについて、皆様のご意見をいただきたい。一人でも多く、一つでも多くご意見をいただきたいので、一人3分ずつを目安に意見交換を行いたい。

#### 意見交換

##### 委員

- ・先日、大学のOBの先生の説明を聞きに行ったところ、非常に下手だった。専門的なことをたくさん言おうとしていて、具体例を示しながら説明してはいるが、観光客、一般の人が興味を持ってない。興味を持って聞けるような話をできる人を養成していかなければならないと思う。

##### 委員

- ・6月に東京から転勤してきて、初めてジオパークというものを目にしたのだが、いまひとつ分かりにくい。山陰海岸の自然の美しさはぱっと入ってくるが、歴史や、観光について考えた場合には非常に分かりにくい。認定とは別に、一般の人に分かりやすく魅力あるような形で発信できたらよいと感じている。

##### 委員

- ・平成4年に気高町にUターンしてきた。海岸線を城崎へ頻繁に出かけ、道路の変化、海の変化を満喫しながら仕事をしてきた経緯があり、ジオパークという言葉そのものが非常に説得力のない言葉に思われる。むしろ、何か特徴をとらえるのであれば、東西110キロの広い圏域の中に点在する個所を紹介する方法として、一本の道路感覚で、「ロード」というような、まず道しるべから紹介を始めては。海にこだわらない発想の転換が必要ではないか。

##### 委員

- ・ジオパークは見るだけでなく、水の中に入って遊べるような、興味がわくようなものに

すべき。行ってみたい、行ってよかった、リピーターがくる、というのが一番のポイント。

- ・ 110キロはとても長い。普通に道を車で、というよりヘリを飛ばして上から見る観光もよいと思う。雇用にもつながるかもしれない。日本でここでしかできない、というものになるのではないか。

#### 委員

- ・ 新聞記事が気になって、切り抜いてきた。世界認定のためには、地域の活性化に結びついた特産品や、観光資源を見出さないといけない。また、地質を通して地域が活性化しているかどうかを認定の基準とすると書いてある。先程の意見にもあったように、ジオパークツアーを組んで、どのような場所が認定に向かってがんばっているのか、皆が見に行けるルートをつくるべき。
- ・ 各地域で、地形の絡んだ特産品を考えていく、地域の盛り上がりが必要ではないか。人材を育成し、一丸となってどんどん盛り上がっていく機運を行政で考えてほしい。

#### 委員

- ・ 難解で分かりにくいものを、いかに通訳して地域の中に密着させるか。認定のためには、地域の住民が自然に説明できなくてはいけない、つまり地域住民にどう定着させるか。
- ・ 鳥取県、兵庫県、京都府と範囲が広いため、取り組みに温度差がでてくる。それをいかに一体化させるかが重要だと考えている。

#### 副部長

- ・ 一般市民がどれだけ理解するか。一部の方だけが騒ぐのではなく、一般市民がまず主役となること。また、自分たちが勉強することから始まり、皆がガイドになるくらいの熱意を持つことが必要。
- ・ 行政にお願いしたいのは、駅など目立つところに、小学生が見ても分かるような案内板を設置すること。
- ・ 郷土に素晴らしい自然があることに市民が誇りを持ち、世界に発信できることが一番重要と考える。

#### 部長

- ・ これをしようという題目をいただき、それからいろいろ勉強するようになった。やはり意識づけが大切と感じている。
- ・ 全体会で市長の話にもあったが、世界に向けてということであれば、外国語のチラシ等が必要ではないか。

#### 林副市長

- ・ ジオパークは、昨年初めて国内で3カ所が世界への候補になったもので、それまでは全国的にもほとんど言われていなかったくらい新しいもの。世界遺産が有名になり、今では市民権を得ているように、ジオパークもだんだんと浸透していくものと思う。
- ・ ジオパーク = 地質公園と訳される。昨年、国内候補地に選ばれなかった理由は、景観の

美しさ、観光面だけをアピールしたが、それは地質公園としての価値ではないと指摘されたため。あくまでも地質的にどのような価値があるのかははっきりさせないといけない。なぜ、どういう経過でできたか、地質学的に究明され、一般向けによく分かるように説明しないとイケない。難しいことをいかに分かりやすく話すかが一番重要との指摘を受け、今は走りながらやっている状況。

- ・いずれにしても、地質的素晴らしさをいかに一般の人に分かるようにするか、いかに活用して観光、研究や、学習に活かしていくかがジオパークのそもそもの目的なので、そのような形でやっていこうと考えている。
- ・ツアーガイドの養成、ツアーの組み立てを行わなくてはならない。協議会、鳥取市としてもやっていく予定であるが、結局はガイドそれぞれの持ち味を活かしてやっていく形になる。基本的なところを学び、上手に咀嚼しながら、それぞれが持ち味のあるガイドになっていただくような形になるのでは。走りながら考えているので、もう少し長い目で見ていただければと思う。

#### 田中次長

- ・皆さんの指摘は日本ジオパーク委員会の指摘と同じ。学術的なことを分かりやすく、ストーリーにして伝えること、関西からの観光客が多いので話にオチが必要等の指摘があり、まずガイドの養成が必要である。
- ・昨年選にもれたのは、学術的な知見が遅れており、学者のネットワーク、拠点施設がないため。ものの素材はよく分かるが、どのように後世に伝えるのかというところ。
- ・昨年以来、学術的ネットワークの構築に力を入れ、テーマの組み直しを行い、その結果、この度国内候補地に選定された。10月28日に候補地となったが、12月1日に世界ジオパークネットワークへの申請が締め切られ、実際の現地審査の際には皆さんのご指摘にあったようなことをやらなければならない。
- ・先程へりのお話があったが、今年度へりを飛ばして空撮をした。それが観光に使えるのかは分からないが・ ・

#### 委員

- ・目標は高く。最初からできることだけ考えてはしょうがない。最終的には空からも見ることができるというアピールがあれば、観光に幅ができる。

#### 委員

- ・二つ提案がある。一つは全日空と交渉できないかということ。東京便の一番いい時（夏あるいは秋の始め）に、世界ジオパークに認定されれば、天橋立から山陰海岸ジオパーク沿いに鳥取に降りてくるルートができないか。

#### 委員

- ・今もそのコースで飛んでいる。

#### 委員

- ・機長にジオパークのアナウンスを入れてもらえないか。

- ・ もう一つは、砂像が人気だが、どうしてあんなに固まるのかという観光客の疑問がある。茶園さんに聞いたところ、10万年前の古砂丘の砂が一番いいとのこと。なぜその説明を美術館でしないのか。その説明をすれば、10万年前の砂はどこにあるのかという発想が観光客に出てくる。そこにジオパークに関連した地層の説明をできるようにすれば、砂像に付加価値がでてくると思う。

#### 委員

- ・ 今、砂の話が出たが、浦富の田後の黒島あたりの砂は全然違う。真っ白な砂で、水中に潜っていて日が差すととても綺麗。菜種島、黒島、もうひとつ先の島は、組成がそれぞれ違うらしい。

#### 委員

- ・ 探せばまだ宝物はいっぱいあるということ。例えば、鳴門金時が一番よいブランド品になるのは、鳥取砂丘の波打ち際の砂だと教えてもらった。そういうものを他地域にとられているということ。なんとかならないものか。らっきょうを作る人ばかりで、芋を作る人はいない。焼酎ができるくらいの芋が砂丘で作られるようになれば大変なことだと思う。

#### 委員

- ・ 暖流が流れるから熱帯魚もいる。砂丘ばかりでなく、なぜ魚がいるのかストーリーを作って、小学校、幼稚園も含めて地域の人に教え込むことが必要。

#### 委員

- ・ 興味を持ってもらうため、小学校の授業の一環としてそこに勉強に行かせるべき。子供が興味を持てば、親が知らないのは恥ずかしい。子供達から膨らんでいく。町の誇りであることをしっかりと勉強する教育がよいと思う。

#### 委員

- ・ 次は医療。今はうつぶの時代で、うつぶの人がたくさんいて、癒しを求めている。水中の撮影をして医療に使うと癒しになる。癒しを与えるのもジオパークの一つの特徴だと考える。実践している先生がいて、大変効果があるのではないかと、という段階である。

#### 委員

- ・ 以前、浦富は臨海学校のメッカだったが、いつの間にか林間学校にかわっている。浦富のエリザベスサンダースホーム（初代国連大使澤田廉三の別荘：鷗鳴荘）は大変な遺産なので、そういう面からも山陰海岸の臨海学校を普及させたい。学校にプールを作るよりも、そういう場所に子供達を連れて行くほうがいい。

#### 委員

- ・ 遊覧船にしてもヘリにしても結局は景観の美しさを体験するものだが、全体会の中で拠点の話がでた。勉強しないと皆に浸透しないので、拠点が重要。水中に潜ったり、へ

りに乗ったりは簡単にはできないので、もっと簡単に実体験ができる拠点づくりを。子供達を連れて行ったり、一般市民が出入りをして身近なものになれば、住民の手で物語を作っていくことができる。そうでなくては世界に認めてもらえないと思う。

- ・拠点が鳥取で2カ所は少ないと感じるので、新たに作るのではなく、既存のもので使えるところがないか。先程のエリザベスサンダースホームのように・・・

副部長

- ・ここで寺本部長が退席される。

田中次長

- ・寺本部長よりお話のあった外国語版チラシについては、申請書そのものを英語に翻訳している最中で、それが基本となるので、今あるのはざっくりしたもの。これから案内板も含め順次各国語で作成していく。

副部長

- ・拠点はぜひ作らなくてはならないが、果たして足を運ぶ方はどれだけいるのか。まず鳥取市にお願いしたいのは、出かけたくても出かけられない方のために、鳥取市報に分かりやすく、ページを割いて連載してほしいということ。

田中次長

- ・その予定である。これまでも掲載しているが、世界に認定というようなところがないと盛り上がりには欠けるようで・・・

林副市長

- ・これから皆さんの興味もわいてきて、だんだん読んでいただけるのではないかと。

委員

- ・米子や境港的発想をすると、ジオパークガイド選手権をするのではないかと。そのようなやり方も一つの方法ではないかと。

委員

- ・市立小中学校でジオパークについて徹底的に話をしてもらいたい。

田中次長

- ・県の補助で鳥大がジオパーク関係の教材を作成しているが、まだ完成品が見えてこない。私達も小学校から毎年砂丘に遠足に行っているが、生成の過程などは聞いたことがない。そこは教育委員会にお願いして、きっちりした教材を作った上で教育をすべきと考えており、実現させたい。
- ・「ロード」という案はでている。いちばん分かりやすいのはシンボル名をつけたもの。

#### 副部長

- ・名称を公募すれば興味がわく。皆の興味をそそることをやっていかないと。

#### 委員

- ・地元も大切だが、外からみた山陰海岸というテーマが脆弱である。鳥取、兵庫、京都という大規模なものであればあるほど、なにか浪漫街道を作るべきだと思う。そうすることが都市住民の興味を持たせる、あるいは行ってみようかという道路促進、道路建設の口実の一つにもなると思う。地元の掘り起こしも大事だが、並行して外からの視線をどうとらえていくかというテーマも必要。
- ・点から線、線から面とよく言われるが、完全に点々となっている地域である。どう結び付けていくか。ユニークな結び付き方も必要かもしれないが、地道な、足で歩ける場所から結び付けていくことから始めても、結構な大事業になると思う。

#### 委員

- ・外から見る時に、マラソンで動く人達をジオパークに呼び込むべき。たくさん集まるので受け入れの体制を整え、一度でも来てもらえれば、次につながるチャンスとなる。そういう人達は、次に何かないか常に探しているのだから、発信すればきっと来てもらえる。

#### 副部長

- ・部長と相談した結果、次回は因幡の祭典を含んだ滞在型観光都市にするにはどうすればよいかについて話をしたい。
- ・次回は1月20日(水)14時から全体会を開催する。

#### <全体会及び部会の運営について>

- ・全体会を設けることで、部会の時間が短くなっている。もっと時間をとれないか。
- ・部会の日を別に設けたほうが、十分な議論ができるのではないか。
- ・全体会は行政側の説明がメインとなっており、他の部会の話が聞けるわけでもない。部会の時間を多くとり、議論することのほうが重要。
- ・部会での意見が結果につながらないのであれば意味がない。

部会の時間延長等が可能か、調整を行う。

#### 閉会